



英語の勉強頑張り 親友と再会したい

山田高 中村 阿佐美 さん

わたしは、英語があまり得意ではありません。ホストファミリーは、辞書などを使って日本語で話してくれたりしました。おかげで短い期間でしたが、一日一日、充実した時間を送ることができました。オランダの生徒たちも気軽に「コンニチワ」とあいさつして、優しく接してくれました。お別れの時は、涙が止まりませんでした。そんなわたしに親友たちは「手紙を書くよ。また来てね」と声を掛けてくれました。この11日間の経験は一生忘れられない思い出となりました。これから英語をしっかりと勉強して、オランダの人たちに再び会いに行きたいです。

多くの人の助けて 素晴らしい訪問に

山田高 佐々木 大地 君



一番心に残っているのは、5日間のホームステイ。ホストファミリーは愉快で、毎日がとても楽しかったです。また日本のことを熱心に学び、興味を持ってくれてうれしかったです。国境を越え見知らぬオランダの人と出会い、友情を深めることができ、これまでにない貴重な体験をすることができました。今回は使節団員のリーダーとして活動しました。反省する点もありましたが、毎日が有意義で無事に日程を終えて帰町できたのも、たくさんの人の助けのおかげと感謝しています。素晴らしい団員と旅を共にし、最高の思い出をつくることができました。

オランダでの経験 みんなに伝えたい

山田中 大川 祥汰 君



ザイストに着いた時はみんなとても不安そうでした。しかし、学校でホストファミリーに会った直後には、みんな「やっていける」と不安は希望へと変わっていました。英語が通じるか不安でしたが、ホストファミリーは辞書を使って会話してくれました。滞在中は、ホストファミリーやCLZの先生、生徒たちの心の温かさに触れることができました。帰国の日、「今日でホストファミリーと別れる」と思うととても悲しく、同時に「また絶対来る」という強い思いがわいてきました。この素晴らしい経験をみんなに伝え、自分も将来に生かしていきたいです。

うと意気込む本町の生徒の期待に応え、CLZの先生や生徒も積極的に指名したり、発表の機会を与えたりしました。特にも、漢字や折り紙などにはオランダの生徒も関心が高く、本町の生徒たちも多くの質問を受け、みんなの要望に応えるように必死に説明。意味が伝わると双方笑顔でお礼を言い合うなど、とても充実したものになりました。CLZでの授業最終日には、校内スポーツ大会が開かれ、バレーボールやサッカーなどで一緒に汗を流しました。その夜の食事にはザイスト市長も激励に

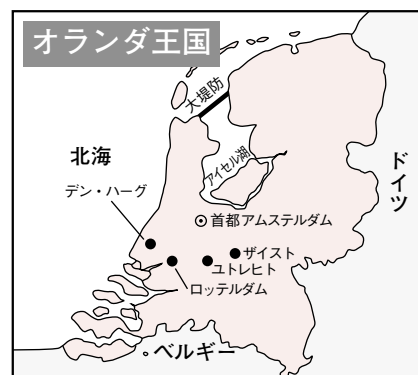
訪れてくれました。十四日は、アムステルダム日本人学校を訪問。オランダで生活する同年代の中学生との交流もまた盛り上がり、予定していた時間が足りなくなるほどでした。その後、デン・ハーグ市で日本大使館を訪問。夜には、CLZでお別れパーティーが開かれ、歌の交歓などで楽しいひとときを過ごしました。最後にお世話になったホストファミリーに花束を贈り、感激の涙を流しながら握手を交わしたり記念写真撮ったりするなど、忘れられない夜になりました。

翌朝は、感謝と激励の中、最後の最後まで別れを惜しみながら、ザイスト市にお別れ。バス

主な行動日程

1月7日…本町出発 8日…アムステルダム着 9日…アムステルダム市内見学(ダム広場、国立博物館、アンネ・フランクの家など)ノアイセル湖の大堤防見学 10日…クリスチック・リセイム・ザイスト校(C LZ)で歓迎会ノザイスト城見学ノザイスト市役所表敬訪問《14日までザイスト市内でホームステイ》 11日～13日…CLZの授業に参加 14日…アムステルダム日本人学校を訪問ノデン・ハーグの日本大使館表敬訪問ノキンデルダイクの風車群見学ノCLZでお別れパーティー 15日…ユトレヒトなどの市内見学(自由市場、デ・ハール城、オルゴール博物館、木靴工場など)ノアムステルダム発ノ16日…帰町

が見えなくなるまで大きく手を振るザイスト市の人たちの姿は、五日間のホームステイでの温かい心の交流を示していたと思います。十六日深夜、使節団はオランダでの多くの体験や思い出を胸に無事帰町しました。思い出されるのはオランダの方々との心のこもった交流。この十一日間の素晴らしい体験は一生の財産であり、本町とザイスト市との友好のきずなはさらに強くなったと思います。



町ジュニア海外使節団交流記



オランダで広げた友情の輪



交流の様子をレポートする統導の菊池傑教諭

町ジュニア海外使節団は、町教育委員会の花坂惣二上席主査を団長として、豊間根中・山田中の二年生八人と山田高校の二年生二人、そして引率者二人の合計十三人。一月七日に行われた出発式で多くの方々の激励を受け、翌八日、大いなる期待を胸に成田空港をたち、空路十二時間を経てアムステルダム市に到着しました。

最初の訪問地は、オランダが世界に誇る大堤防。その広大な湖と干拓地を前に、もともとのこの国の狭さを痛感し、だから

世界中に羽ばたき、日本人との出会いがあったのだと思いをこめました。翌十日は、いよいよ本町との友好都市であるザイスト市入り。美しいザイスト城と風格あるザイスト市庁舎を訪問しました。夕方にはクリスチック・リセイム・ザイスト校(C LZ)で歓迎セレモニー。

町ジュニア海外使節団員としてオランダを訪問した中学生八人と高校生二人は、一月七日から十七日までの日程を終え元気に帰ってきました。江戸時代にオランダ船ブレスケンス号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への生徒の派遣も、今年で九度目。生徒十人は友好都市ザイスト市でホームステイや学校での授業体験などを通じて、現地の人たちと友情を深めました。今号では、生徒たちの体験談とあわせ、交流の様態を統導した山田中学校の菊池傑教諭がレポートします。